

千鳥ヶ淵戦没者墓苑

秋季慰霊祭における

自衛隊の拝礼

千鳥ヶ淵戦没者墓苑奉仕会常務理事

山崎 文夫 陸自71

一、平成三十年度秋季慰霊祭

平成最後の年の秋季慰霊祭が、10月18日(木)、三笠宮寛仁親王妃信子殿下の御臨席を仰ぎ、厳肅かつ盛大に執り行われた。式典は国歌斉唱の後、献茶の儀と続き、祭主である津島奉仕会会長が「式辞」で全戦没者に対して心からなる感謝と追悼の誠を捧げた。次



御臨場される寛仁親王妃信子殿下

いで昭和天皇、今上陛下の御製奉誦音羽ゆりかご会による「ふるさと」等唱歌の奉納が行われた。

安倍内閣総理大臣(衛藤総理大臣補佐官代読)は「追悼の辞」で「今なお海外に眠っておられる方々の御遺骨を一日でも早く祖国日本にお迎えするのが国の責務である」との決意を述べた。

その後参列者一同が起立する中、寛仁親王妃信子殿下が墓前に進まれ全戦没者に拝礼、続いて黙祷を捧げられた。続いて陸、海、空各自衛隊の代表部隊が音楽隊と共に威容を整え整齊と拝礼した。今年には陸上自衛隊から第34普通科連隊、海上自衛隊から教育航空集団、第3術科学校、航空自衛隊から航空支援集団、航空開発実験集団の各部隊が代表部隊として拝礼した。

その後祭主、総理大臣、遺族会、戦友会、参列来賓等の献花が行われ、式典は滞りなく終了した。

二、戦没者墓苑と自衛隊の歴史

千鳥ヶ淵戦没者墓苑と自衛隊との関係は多岐に亘るが、本稿では墓苑及び秋季慰霊祭と陸上自衛隊との関係を中心に、過去の「千鳥ヶ淵」記事から抜粋し紹介したい。

(一)千鳥ヶ淵戦没者墓苑の整地作業は自衛隊が支援

千鳥ヶ淵戦没者墓苑が竣工したのは

昭和34年3月、これに先立ち千鳥ヶ淵の建設予定地の整地作業が行われた。「整地は茨城県勝田市にある陸上自衛隊施設学校の隊員が担当されました。何分にも嘗ての宮家の戦災跡であったため、瓦や石などが散乱していた状況であり、昭和33年8月、約10日間に亘って整地が行われたわけです。隊員等は極めて真剣熱心に作業していました。」

(昭和48年5月号記事より)

(二)自衛隊部隊の初参拝は昭和40年

「昭和40年11月20日早朝、練馬の陸上自衛隊第1普通科連隊が、連隊長森山高士一佐指揮の下に、六角堂前に整列し、流麗たる「国の鎮め」を吹奏して厳かに参拝された。」

(昭和40年12月号記事より)

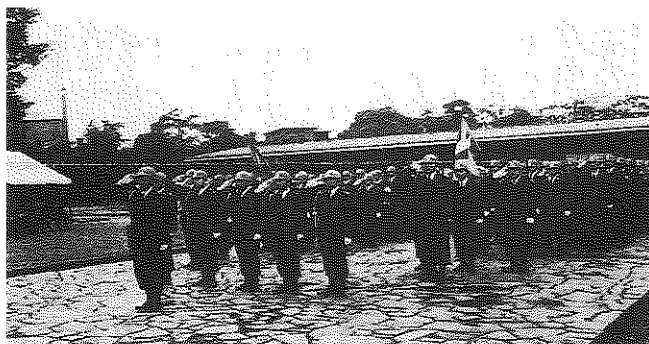
(三)秋季慰霊祭への参列は昭和42年から

以下のように、昭和42年以降の秋季慰霊祭における陸上自衛隊の部隊参拝は、師団長自らが直接2コ連隊を指揮し、参拝をされていた様子が記録されている。

「第1師団の第1、第32普通科連隊は、2旒の隊旗を先頭として歩武肅々として堂前に進み、第1師団長橋本正勝陸将はその先頭に立って号令一下、全隊員が捧げ銃をなし、喇叭手十名の吹奏する『国のしづめ』は、波静かな

千鳥ヶ淵を越えて高く高く大内山の森の彼方にひびきわたった。初めてこの祭典に参列した将兵の感慨、この様に見入り、聞き入る御遺族始め一同の感慨や如何」(昭和42年10月18日の慰霊祭記事より)

「次いで音楽隊が堂前に参進して『国のしづめ』を慰霊演奏。更に第1師団長渡辺博陸将の指揮する在京2個連隊が、『捧げつつ』をする整然かつ肅然! 部隊参拝によって式典は一段の昂まりを見せる雰囲気を感じさせ



昭和42年秋季慰霊祭における第1師団部隊参拝

明の間の多岐な開拓の歴史を、
 明の間に多岐な開拓の歴史を、
 明の間に多岐な開拓の歴史を、

野動物の歴史を、

野動物の歴史を、
 野動物の歴史を、
 野動物の歴史を、

野動物の歴史を、
 野動物の歴史を、
 野動物の歴史を、

野動物の歴史を、
 野動物の歴史を、
 野動物の歴史を、

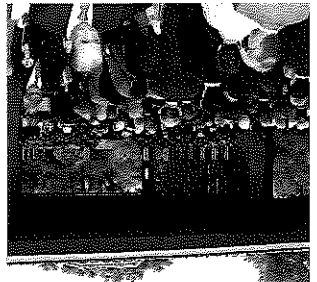
野動物の歴史を、

野動物の歴史を、
 野動物の歴史を、
 野動物の歴史を、

野動物の歴史を、
 野動物の歴史を、
 野動物の歴史を、

野動物の歴史を、
 野動物の歴史を、
 野動物の歴史を、

野動物の歴史を、
 野動物の歴史を、
 野動物の歴史を、



参列者による「海香」